

〔日本書紀十五〕二十三年略雄八月大泊瀨天皇略雄崩略中 小根仍使漢彥啓於大連曰大伴大連我

君降大慈愍促短之命既續延長獲觀日色輒以難波來目邑大井戶田十町送於大連又以田地與于

漢彥以報其恩

〔續日本紀十〕天平勝寶五年九月壬寅攝津國御津村南風大吹潮水暴溢壞損廬舍一百十餘區漂

沒百姓五百六十餘人並加賑恤仍追海濱居民遷置於京中空地

〔類聚三代格十五〕太政官符

合田六町略中

攝津國二町一町九條五里卅五大針田一町九條六里二丈針田在島上郡兒屋里

右修理大門中門四王并金剛力士等像料略中

神護景雲元年十二月一日

〔續日本紀三十八〕延曆三年五月癸未攝津職言今月七日卯時蝦蟇二万許長可四分其色黑斑從難

波市南道南行池列可三町隨道南行入四天王寺內至於午時皆悉散去

〔玉勝間六〕しはつ山笠縫島

古今集大歌所の歌しはつ山ぶりしはつ山うち出て見れば笠ゆひの島こぎかくるたななしを

ぶねこれは萬葉三の卷に四極山打越見者笠縫之島傍隱棚無小船とある歌なるを笠ゆひとは

うたひびがめたるなりさてしはつ山笠ぬひのしまは或人のいはくともに津國なり略中さて

笠縫島は今東生郡の深江村といふところ是なるべし此所菅田多く有て其菅他所より勝れた

り里人むかしより笠をぬふことを業として名高く童謡にもうたへり今も里長幸田喜右衛門

といふ者の家より御即位のをりは内裏へ菅を獻る又讚岐の殿へも圓座の料の菅をまゐらす

とぞ略中さて此深江村は大坂城より東にあたりて河内の堺に近し此地いにしへは島なりし